



## 学校評価アンケートから見えてくるもの（前期）

本校では、「主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める」「日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る。」等を今年度の指針として教育活動を進めています。ご協力いただきました前期の学校評価アンケート結果（1年生から6年生までの児童、保護者の皆様、教職員）についてお知らせします。今後の山階小学校の指針の一つとして大切にしていきたいと考えています。質問は、知・徳・体・全般と4分野にわたって行い、質問の項目は児童、保護者とも視点を同じにしています。多岐にわたるその中で、山階小学校の特徴的な項目を紹介し、考察します。

### 良い点（そうおもう、だいたいそうおもう）が多い質問項目から

下の表の数字は各質問項目で「そうおもう」または「だいたいそうおもう」と答えた割合（％）です。

		1・2年	3～6年	保護者	教職員
知①	学校の勉強はよくわかる。	92.9	93.9	91.3	100
徳①	学校は楽しい	98.9	91.2	94.5	100
徳②	友達と協力してなかよく過ごしている	97.9	95.8	95.4	94.1
徳⑤	家族や先生はよく話を聞いてくれる	95.7	83.3	91.8	94.1
徳⑩	複数の教員による指導	100	95.3	93.2	100
体③	健康・安全への留意	98.9	89.3	95	100
全③	地域とのかかわり	95.8	88.8	97.8	100

ここ数年、「楽しい学校生活を送る」という点で高い肯定的な結果が出ています。少し低めに出る傾向のあった1、2年も高い肯定的な結果が出ています。「楽しい学校生活」を実現している要因として、「友達と協力してなかよく過ごしている」「家族や先生はよく話を聞いてくれる」「地域とのかかわり」の質問項目における高い肯定的な回答と関連があると考えています。つまり、「友達の関係がいいから**学校が楽しい**」「勉強が分かるから**学校が楽しい**」「家族や教職員によって安心できる」「地域の人が多く関わってくれているから安心できる」という因果関係が想像できます。山階小学校は、伝統的に子どもたちが他者に対してやさしく、受容する傾向があります。また、山階小学校では日常的に地域の方が学習活動や登下校に関わっていただいています。

すでにいろいろな形でお知らせしていますが、2年ほど前から京都市では学級担任を固定しない「チーム担任制」を一部導入し、最善の形を模索しています。山階小学校では、「教科担任制」「同学年の担任による交換授業」を実施しています。質問項目「複数の教員が授業を受け持つことは……（徳⑩）」の回答は児童・保護者・教職員の全てで高い肯定的な意見が出ており、現在の取組が有効であると考えていいと思います。

「健康安全への留意（体③）」は安定して肯定的な回答が出る質問項目です。安全に関しては、交通事故の危険が多い地域でありながら子どもの登下校時の事故がない現実とも関連しています。毎日の登校班での登下校の見守りや交通安全教室の充実などがあって、子どもたちの意識の中にも「安全」ということが大きな位置を占めることになっていると考えられます。ただ、例年に比べて3～6年生の肯定的な意見が89.3%であることは少し危惧されます。基本的な生活習慣の質問項目（体①）でも3～6年生の回答が86.5%と他より少し低い肯定的な回答となっています。

山階小学校の特徴である「家庭」「地域」「学校」が三位一体となって教育活動を進めてきた結果、「学校が楽しい」という質問に対して肯定的な回答が多くみられています。今後も、三位一体となって進めていくことで肯定的な回答が大多数になるよう努めていきたいと考えます。ただ、「家族や先生はよく話を聞いてくれる（徳⑤）」の質問で3

～6年生の回答が90%を切るようになっている点は真摯に受け止め、意識を高めるようにしていきたいと考えます。複数の教員が指導する体制は、京都市が進める「チーム担任制」をゴールとはせず、いろいろな形の指導を考えていきたいと思ひます。健康・安全に関する質問で少し肯定的な回答が少なくなっている項目については基本的な生活習慣の問題を中心に保健室が行った「生活点検」と見比べながら改善点を探ていきたいと思ひます。

## 評価が低かった点（あまりそうおもわない、おもわない）が多い質問から

保護者

肯定の比率

		1、2年	3～6年	保護者	教職員
体①	基本的な生活習慣	89.6	86.5	94.5	100
知②	進んで読書をしている	88.3	82.7	48.6	88.2
知③	進んで家庭学習をしている	88.3	82.7	48.6	94.1
知④	子どもは自ら考えて行動（主体性）	91.5	84	75.0	58.8
知⑤	子どもは相手の話をよく聞いたり……（対話力）	93.6	86	66.0	70.6
徳⑨	スマートフォン・PCの使い方	88.5	58.2	68.9	94.1

基本的な生活習慣についてはもう少し多くの肯定的な回答が望まれます。「早寝、早起き、朝ごはん」が質問の内容です。保護者と児童の間において肯定的な回答の差が8%あります。大きく乖離している原因としては、今までの回答の傾向を考えると、重視しているポイントの違いが考えられます。保護者は「朝ごはんの用意をしっかりして、遅れないように送り出している」と考え、児童は「就寝・起床の時刻が十分でない」と考えているのではないのでしょうか。就寝・起床の時刻に課題のある児童はもう少し多いと考えられます。（生活点検より）

「進んで読書をしている」については保護者と児童・教職員の間に大きな違いがあります。保護者は家庭での姿をもとに回答し、児童・教職員は学校での姿をもとに回答したと考えられます。児童たちは、ここ3年ほど続けている朝の「全校読書」があったり、毎週クラスで図書館へ行き本を借りていたりしているので「進んで読書している」と考えているのではないのでしょうか。逆に、家では本を読むシーンが少ないので保護者からは「本をあまり読んでいない」と考えているのではないのでしょうか。これは、後述する「スマートフォン・PCの使い方」の課題とも関連があると思ひます。学校内では少しずつ、読書の内容に変化が見られています。1年以上取り組むことで徐々に読書の習慣が浸透しているので、今後も継続していくべきと思ひます。

「進んで家庭学習をしている（知③）」「子どもは自ら考えて行動（主体性）（知④）」「子どもは相手の話をよく聞いたり……（対話力）（知⑤）」の三つの質問においても保護者と児童の間に大きな違いがある。児童の方が肯定的であり保護者の方は否定的な回答が多くなっています。「進んで家庭学習をしている」（知③）は「宿題や自主学習はやっている」と考える児童に対して保護者は「進んで」という言葉に引っかかっているのではないかと考えます。「子どもは自ら考えて行動（主体性）（知④）」「子どもは相手の話をよく聞いたり……（対話力）（知⑤）」の質問では似た傾向が見られます。保護者・教職員ともに肯定的な回答が少なくなり、児童との評価基準の違いが感じられます。「自主的な学習」は高学年が自ら課題を設定して学習する宿題に取り組んだり多くの学年で「自主学習」に取り組んだりするなど進歩している面が見られます。ただ、自主性に任せるとなかなか取り組めない子どもがいることも事実です。ご家庭に理解していただき学校と共に支援する体制を作っていくことが必要です。また、「対話力」については取り組み始めた時点で、なかなか大きな成果が見えにくい状態です。今後も継続して、あらゆる場面で意見交流をする際に「一往復半」以上の会話を心掛けたいと考えています。

「スマートフォン・PCの使い方（徳⑨）」はここ数年課題となっている点です。肯定的な回答が徐々に減ってきて、低学年へも波及してきています。夏休み明けの「生活点検」においても37%が1時間以上の「テレビ・ゲーム・ユーチューブ」の使用となっています。習い事などをしている場合、自由になる時間は1日2時間程度です。そのうちの大半を電子機器で遊ぶことに使われています。足りない分は就寝時刻を遅くしている子どももいるようです。「生活点検」でも就寝時刻が遅くなっている傾向が見られます。高学年であっても9時間の睡眠

が欲しいところですが、9時間以上寝ることができているのは28%程度です。近年、朝の体調不良を訴え、遅刻欠席をするケースが増えています。改善するためにはスマートフォンやPCの使用について気をつけていく必要があります。ただ、学校だけの取組だけではなかなか改善が難しいので、家庭の協力をお願いしたいと考えています。

アンケート結果を見て、山階小学校は地域と家庭と学校が協力して教育活動にあたっていることがわかります。山階小学校の子どもたちには「友だちに気を配る」「ルールをまもっていく」というよさが伝統的にあります。その様な良さは地域・家庭のご支援があるからこそ持続していることだと思います。学校環境の整備（学校周辺の清掃、草木の剪定、芝生の整備）をやっていただいたり、生活科や総合的な学習で支援いただいたり、野菜の栽培活動を体験させていただいたりしていることが子どもたちの心に届いているのだと思います。今後も地域・家庭の支援と協力をお願いします。